

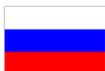


【韓国】 総合指数は 2.4%高と 9 週続伸、過去最高値を連日で更新

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.4%高と 9 週続伸。大みそかの 12 月 31 日と元日は休場のため 3 日間の取引。指数は 30 日まで 5 営業日続伸となり、連日で過去最高値を更新した。トランプ米大統領が追加経済対策の法案に署名した上、先進国が相次いで新型コロナワクチンを承認したことで、世界景気を持ち直しに期待する買いがソウル市場にも波及した。韓国は新型コロナウイルスの第 3 波の最中だったが、巣ごもり需要拡大の思惑買いが IT 株やゲーム株に入る面もあった。同国政府は 29 日、小規模事業者や失業する可能性が高い人々を対象とする総額 9 兆 3000 億ウォン（84 億 9000 万米ドル）の支援策を打ち出した。今週は堅調な展開か。ロイターの調査によると、旺盛な半導体需要を受け、12 月の韓国の輸出は回復した可能性がある。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は 0.7%高と 3 週ぶり反発、今週は正教会クリスマスで薄商い

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.7%高と 3 週ぶりに反発。31 日が大みそか、1 日が正月で休場のため取引は 30 日までの 3 営業日だった。米国の追加経済対策への期待が高まったものの、米国へのサイバー攻撃疑惑を巡る対ロシア経済制裁への警戒感が台頭し、上値では伸び悩んだ。週初の 28 日は前日にトランプ米大統領が総額 9000 億米ドルに上る追加経済対策を盛り込んだ法案に署名した効果で前営業日比 0.9%高と堅調。29 日はブレント原油の反発が好感されて指数は 0.5%高となり、6 日続伸。30 日は年末年始の連休を前に利益確定売りが広がり、7 営業日ぶりに反落した。今週は 7 日がロシア正教会のクリスマスで休場。ロシアでは例年、正月からクリスマス前後に長期休暇を取る市場参加者が多く、週を通じて薄商いが見込まれる。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 1.8%高と 9 週続伸、今週は 10-12 月期成長率を好

感か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.8%高と 9 週続伸。1 日が元日の休場で 4 営業日の取引だったが、好地合いを背景に堅調な展開が続いた。ホーチミン証取とハノイ証取を傘下に置く持ち株会社、ベトナム証券取引所の設立を政府が承認したことも追い風で、株式取引の効率化や活発化への期待が高まった。指数は週初から堅調で、29 日まで 3 営業日続伸。30 日は小幅に反落したが、31 日に反発し、2018 年 4 月以来、2 年 8 カ月ぶりに終値で 1100 ポイント台を回復した。個別では、テクコムバンクが週間で 6.6%高、ベトナム投資開発銀行が 4.5%高と銀行株が総じて上昇。食品のマサン・グループが 7.8%の大幅高で指数を押し上げた。今週は堅調か。統計総局が発表した 20 年 10-12 月期の GDP 成長率が 4.5%に回復しており、好感されそうだ。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%安、今週は 6000 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は3日間の取引で0.5%安と続落。20年12月月間では6.5%高。先週は週初に上昇したものの、その後は軟調で、20年の最終取引となった30日には終値で6000ポイントを割り込んだ。連休明けの28日は、トランプ米大統領が追加経済対策に署名し、連邦政府閉鎖が回避された効果で、指数は前営業日比1.4%高と3日ぶりに反発。ただ、勢いは続かず29日に反落すると、30日は米英の製薬2社から新型コロナウイルスのワクチン供給を受けることで合意したものの買い材料視されず、続落して引けた。今週は4日の20年12月のCPIに続き、5日には11月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.1%高、新型コロナウイルスワクチンの接種開始を好感

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で0.1%高とほぼ横ばい。20年12月月間では1.3%高。先週は連休前の下落が上昇幅を縮めた。週初の28日は、買い材料に乏しく小幅反落。一方、29日に前日のNYダウが過去最高値を更新した流れで買い戻されると、30日は国内で新型コロナウイルスワクチンの本格的な接種が始まったほか、政府が航空業界に対する追加支援策を発表した効果でシンガポール航空株が上昇したことも追い風となり、続伸した。ただ、半日立ち合いとなった31日は反落して引けている。今週は4日発表の20年10-12月期のGDP速報値と12月の製造業PMIに対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.5%安、週初の利益確定売りが痛手

SET指数は3日間の取引で2.5%安と反落。20年12月月間では2.9%高。先週は週初の下落が痛手だった。28日は場中に一時、1500ポイントを超えたものの、その後の利益確定売りが響き、終値では前営業日比2.3%安と3日ぶりに反落。29日は20年11月の鉱工業生産が前年同月比0.4%増と1年7カ月ぶりに前年の水準を上回った効果で買い戻された。ただ、30日は新型コロナウイルスの国内感染者数の増加を受け、都市封鎖強化への懸念が広がった影響で反落して連休前の取引を終えている。今週は4日発表の12月のCPIが焦点。外部要因では中国の12月の財新製造業PMIなどが意識されそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、20年11月の輸出額は3カ月連続で前年超え

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.9%安と3週連続落。20年12月月間では4.1%高。先週は年末の下落が響いた。連休明けの28日は、20年11月の輸出額が前年同月比4.3%増と3カ月連続で前年の水準を上回った効果で、指数は小幅に反発。29日はゴム手袋メーカーが下げを主導したが、30日は年末のお化粧品買いで買い戻された。ただ、31日は利益確定売りで前日比1.0%安と反落して取引を終えている。個別の銘柄では、強制労働問題を理由に米国へのパーム油輸出が禁止されたサイム・ダービー・プランテーションが下落した。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。